

糖尿病透析患者におけるインスリンから DPP-4 阻害薬リナグリプチンへの切り替えと限界-皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価

長崎腎病院

○小嶺真耶 中島ゆかり 矢野未来 江藤りか 宮崎健一 李嘉明 橋口純一

【目的】

インスリン治療中の糖尿病透析患者にて、リナグリプチン単剤への切り替えを検討する。

【対象・方法】

投与インスリン量 $<15\text{U}$ 、空腹時 CPR $>5.0\mu\text{U/mL}$ 、併用糖尿病治療薬なし、を満たす 7 例でリナグリプチン 5mg に切り替え、血糖変動を CGM にて測定する。

【結果】

HbA1c はインスリン投与時 $6.6\pm 1.6\%$ からリナグリプチン 5mg 切り替え後 $6.1\pm 2.0\%$ と変化はなく、低血糖もみられなかった。また、血糖変動スコア (Mean Amplitude Glucose Excursions) も 78.0 ± 29.0 から 59.0 ± 22.0 と変化なかった。

【考察】

糖尿病透析患者において、比較的少量のインスリンからリナグリプチン単剤の切り替えが安全に可能であったが、血糖変動の安定化は確認できなかった。